

## 令和7年度 第2回学校運営協議会 報告

### 1 目的

今年度の学校経営計画に基づいた指導成果に係る中間報告をおこなう。委員の方々から本校の学校運営に関する御意見等を頂戴し、地域に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進するとともに学校活性化のための方策について共に考え、本校教育の充実・発展に寄与する。

### 2 日時

令和7年10月9日（木）10:00～11:10

### 3 場所

本校中会議室

### 4 出席者

会 長	斎 藤 芳 里	様（二子町振興協議会専務）
副 会 長	佐 藤 満 義	様（北上工業クラブ会長）
委 員	高 橋 剛	様（北上市商工部長）
委 員	八重樫 博 之	様（岩手県建設業協会北上支部長）
委 員	菊 池 良 弥	様（北上市立上野中学校長）
委 員	柴 田 智 子	様（北上市立二子小学校長）
委 員	武 田 健	様（本校PTA代表）
委 員	後 藤 則 夫	様（本校同窓会代表）

菅 原 浩 一 委員（北上地区電気工事業協同組合理事長）は所用により欠席

#### 【本校職員】

校 長	村 上 智 芳
副 校 長	植 木 淳
副 校 長	篠 原 信 孝
事 務 長	坂 本 奈都子
総務主任	阿 部 正 孝

### 5 次第及び内容（要旨）

#### （1）開会

#### （2）会長挨拶

本校生徒の活躍が新聞等で取り上げられている。生徒のより良い生活や進路活動等について委員の皆様からたくさんの意見をいただき、本協議会を有意義なものとし、本校の発展につなげていきたい。

#### （3）学校長挨拶

会長をはじめ委員の皆さまには本校の教育活動に際し御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。

生徒は授業や各種行事等で活躍し、有意義な学校生活を送っている。インターハイや国民スポーツ大会等では優秀な成績を修めた生徒もいる。また、今年度はDXハイスクールの採択、I-SEP との連携事業、いわて留学の取組（北上市との連携）、地域企業との連携による探究活

動の実践等、新たな取り組みにより「学びの広がり」を実践している。第3期県立高等学校再編計画において、本校は令和9年度より学科改編（半導体関連学科の新設）をおこなうことになった。半導体に関する学問は未熟であり体系化されていない現状にあるため、I-SEP や I-SPARK 等から協力をいただき進めていきたい。

後期は3年生の進路決定や各種行事により多忙を極めるが、生徒の幸せの実現に向けた取り組みを教職員が一丸となって実践していきたい。委員の皆さまからは忌憚のない御意見を頂戴したい。

(4) 議長選出

岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則、第5条の2「会長は、会務を総理し、会議の議長となる」により斎藤会長を選出した。

(5) 協議

事務局及び委員より協議事項の提出はなかった。

(6) 報告

1) 今年度の教育活動（中間報告）

資料により以下の部・科より現在までの中間報告が行われた。

ア 総務部	イ 教務部	ウ 生徒指導部	エ 進路指導部
オ 厚生部	カ 図書・視聴覚部	キ 教育支援相談部	ク 情報管理部
ケ 工業科			

【委員C】

いわて留学については、地域みらい留学との連携により、中学生が本校に関心を持ってもらった様子である。生徒獲得の観点からもサポートしていきたい。小中学校への出前授業は、本校を知ってもらう良い機会と考える。地域産業講座については市内企業も来校し、講座開設できる環境を構築してほしい。できることがあればフォローしていきたい。

2) 部活動等大会結果

県高校総体及び以降の大会結果等について中間報告が行われた。

3) 第3期県立高等学校再編計画に係る本校の改編

県から示された再編計画（当初案）と本校の改編計画（令和9年度に半導体関連学科の新設）についての説明及び改編における取組報告と今後の予定について説明された。

4) その他

本校生徒が掲載された新聞等から生徒の活躍について中間報告が行われた。

(7) 委員の皆様から（提言、指導・助言等）

【委員A】

出前授業で小中学生に教えたり、地域産業講座やインターンシップ等で企業の方々と接したりすることは進路選定や今後の生き方に良い経験となることだろう。これからもたくさんの方々と交流し刺激を受けてほしい。また地域行事にも是非参画をお願いしたい。

【委員B】

県内工業高校で就職者の約半数が県外に就職している学校があるとのこと。本校は大部分の生徒が地元に残り、ものづくり産業の中核を担っている現状にある。これからも地元の活性化に尽力してほしい。

来年度の「きたかみ・かねがさきテクノメッセ」は「木・金・土」開催とする。「木・金」は学生を中心に、「土」は一般を中心に来場してもらうことを想定している。

【委員D】

いわて留学を有用とした生徒獲得に尽力してほしい。今後もインターンシップや各種講座等で連携していきたい。

**【委員E】**

中学生にも近隣企業や I-SPARK を見学する機会を設けたい。そして工業やものづくりへの興味関心を高揚させたい。

今年度いじめの認知が最小値で推移しているとの報告があったがどのような指導をおこなっているのか。

**【副校長】**

本校では年に4回、生徒及び保護者アンケートを実施し状況の把握に努めている。

今年度のアンケートにおいて認知案件はないが、生徒間におけるトラブル等は確認されている。学級担任が小さなトラブル等にも迅速に対応できた結果と考える。生徒－学級担任の信頼し合う関係性、生徒間の「思いやりの心」の醸成を図りたい。

**【委員F】**

さわやかなあいさつの実践により地域から愛され続けられる学校になっていると考える。今後も継続してほしい。

**【委員G】**

生徒が楽しそうに高校生活を送っている様子が伺える。生徒数の減少は苦慮される場所であるが、他自治体と比較すると本校は恵まれた環境にあるのだろう。これからも「ものづくり人の育成」に尽力してほしい。

**【委員H】**

「黒工ブランド」の継続のために、あいさつができる生徒の育成を図ってもらいたい（活気ある学校には元気なあいさつがある）。

(8) その他

次回予告…来年2月に実施したい。

(9) 閉会